野菜ソムリエら43人が築地市場視察

豊洲移転前に思い出刻む

ベジフルデザイン主催・東京シティ青果協力「大人の社会科見学」

（上）東京シティ青果のスタッフから市場取引などについて説明を受け、熱心に聞き入る参加者（下＝スタジオアトム撮影）試食では野菜16品目、フルーツ5品目の味を確認した。普段は口にしないものも多く、高い興味を示した

今年11月に豊洲市場への移転が予定されている東京・築地市場に、野菜ソムリエらが視察に訪れた。この青果市場見学会は、東京シティ青果（東京都中央区）の協力のもと、ベジフルデザイン（東京都府中市）が企画運営したもの。野菜や果物に関心の高い人々に、移転前に築地市場の思い出を刻んでもらうとともに、市場や流通について知る機会を提供したいとの目的で開催され、セリや場内見学、試食会などが行われた。

6月25日「大人の社会科見学」として、築地の青果市場を見学するツアーが開催された。対象は野菜や果物に関心の高い人々で、野菜ソムリエら43人が参加。今年11月7日の新市場移転前に一度は訪れたいと、申し込みが殺到した。

参加者の8割近くが初めて築地の青果市場に足を踏み入れたということで、セリや場内を見学、仲卸店舗を視察した。また試食会では野菜16品目、フルーツ5品目を試食。築地らしい促成品も試食会場に並び、オクラの花やドラゴンフルーツの蕾、また江戸東京野菜の馬込半白胡瓜や寺島茄子、京野菜の賀茂茄子、加賀野菜の加賀太胡瓜など、市場に集まる様々な青果物を堪能した。

また、東京シティ青果の針替茂人副社長から、築地の歴史や移転などについての説明も。針替副社長は「野菜ソムリエのような方々に、ぜひ野菜の新たな価値や使い方の提案、活用法の発信をしていってほしい」と期待を寄せた。

市場や流通の役割について関心の高い参加者も多く、とりわけ「野菜ソムリエ」は食の感度の高い一般消費者の代表として、野菜や果物の情報発信に敏感だ。イベント後のアンケートでは「豊洲市場も見学をしてみたい」との声も多く、市場流通への興味の深さがうかがえた。

首都圏のハブ市場として誕生する豊洲市場は、コールドチェーン対応され、築地の約1・7倍の広さの市場として開場する。築地で継承してきた伝統文化と共に移り変わる市場の歴史を、野菜や果物に関わる多くの人々が注目している。

（佐々木久美子）